

Ro
g
A
l~

2022年6月 文京区立森鷗外記念館編集・発行(年4回発行)

文京区立 森鷗外記念館NEWS

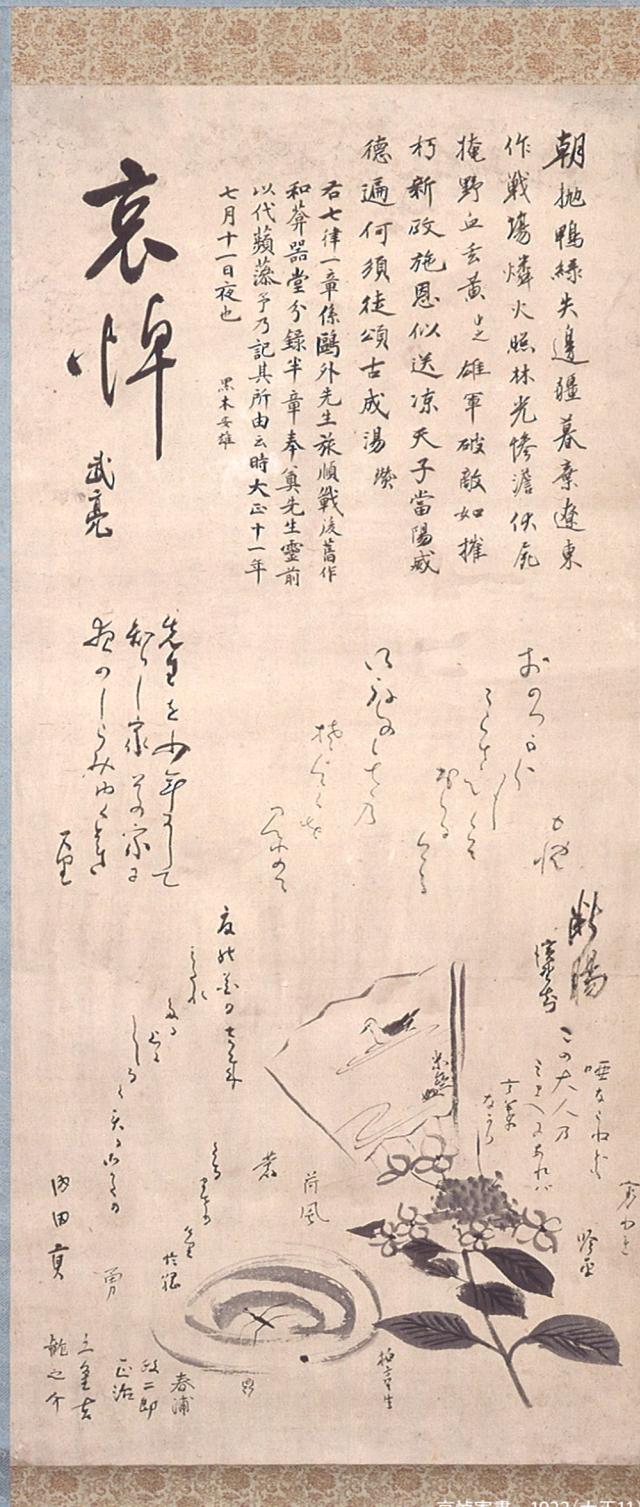
No.39



1908(明治41)年撮影



1912(明治45)年撮影



目次

巻頭コラム「曾祖父・鷗外のこと」森美奈子(エッセイスト)／開催中の展覧会 特別展「読み継がれる鷗外」／ショップ便り／展示のお知らせ コレクション展「鷗外の東京の住まい」／展示会場から／コラム「詩人鷗外」高橋睦郎(詩人)／活動報告／地域情報／編集後記／これからの催しもの

鷗外生誕160年 没後100年 鷗外100年の森へ

曾祖父・鷗外のこと

森 美奈子（エッセイスト）

大正八年五月十三日に玄文社から発行された曾祖父森林太郎の翻訳本の「蛙」にはプロパンスの詩人フレドリックミストラルの短編が最初に掲載されている。ミストラル自身の小説のタイトルもまぎれもなく「蛙」であるが、他は小説五作品、脚本四作、叙事詩六編が掲載されている。いずれも海外の作家の作品である。はしがきには、次の如くに此書を公にせしめた。書中の收める所は皆訳文である。わたくしは老いた。翻訳文藝を提げて人に見ゆるも恐らくは此書を以て終とするであらう」と。そうして、その文末には「わたくしは蛙の両棲生活を継続することが今既に長きに過ぎた。帰りなむにいざ、帰りなむにいざ。氣みじかな青年の鉄椎の頭の上にうちおろされぬ間に」と文末を結び、「己未の二月 森林太郎」とある。この小説のあらすじは次のようにある。四年の遍歴後、郷里へ久々に帰った指物職の息子ビニヨレエは父から歓待された。父への土産話が進むうちに、長旅の途中の寺院の洗礼盤の話になった。そうして、作り付けの蛙に気がつかなかつたか、と父に問われた。ビニヨレエが見落としたことが分かると父は彼をなじつた。ビニヨレエは、これまで、自分は全ての事物を長旅により経験し、人間として充分な成長を遂げたと彼は自身で思い込んでいた。ところが、予想外の父の反応に謂わばショックを受けた彼は、帰宅後早々に素早く、八日間の徒步の旅へ戻った。そうして、漸く、再び洗礼盤までたどり着いたのである。つくりつけの

蛙を目の当たりにすると、彼は感情が高まり、蛙を鉄槌で力任せに打つた。伝説によると、蛙は生きていたかのような鮮血の赤色で洗礼盤を染めた。さて、この謂わば単純な筋書きとも言える翻訳を曾祖父が訳した思惑を私は考えた。はしがきを書いた鷗外は当時、六十歳で訪れる死去まで約三年半の年月はあった。はしがきには、「機会はわたくしは老いた。翻訳文藝を提げて人に見ゆるも恐らくは此書を以て終とするであらう。」と書いている。この言葉の意味するものは、曾祖父はこの頃から萎縮脳が更に悪化していたと想像する。謂わばそろそろ、文筆の仕事に終止符を打とうと考えていたのではないだろうか？ 鷗外のはしがきのその決意の意味するものは、具体性に欠けてはいるものの、作家人生との別離の文面だと私が受けとめるのは、曾孫の無神経な決めつけと更に間違った解釈に過ぎないかも知れない。

私が鷗外の翻訳小説で心を揺さぶられたものは、シユニツツラー作「みれん」もその一つである。鷗外は原作者のつけたドイツ語の原題「Sterben(死)」を「みれん」と改題した。何故、「Sterben」を「みれん」と鷗外は改題したのだろうか？ 原作者シユニツツラーは愛欲の心理の分析と描写の大家であり、デカダンの世界に住みついたと云われる。ウィーンの医者であつたことも鷗外と国は違うが、共通点であろう。ゲーテルドイツ語のシユニツツラーの原作「シユテルベン」を調べてみた。一頁から148頁まである。美しい表現が詩のように展開してゆく。決して難しいドイツ語ではない。中級上あたりであろうか。単純な会話が耳に優しく聞こえてくるようだ。このシユニツツラーの文面と鷗外の「みれん」を私は机に並べてみた。原文では恋人に使う「おまえ」の会話が展開してゆく。ところが、鷗外の「みれん」の同じ頁では、女の丁寧過ぎる話し方を至るところで発見する。ここで、当時の明治社会の男女間に行き交つた言葉の習慣が写し出されている。さて、私は「みれん」とは対照的に男は冷たく、女は昔の愛を振り返つている鷗外の作品「普請中」の場面を急に思い出した。「みれん」と較べてみると、みれんの方は男女間にそこはかとなく優しさが溢れているが、「普請中」では男がされて、女が過去の影をひきずる。安堵して読むような小説ではない。因みに、みれんはドイツ語で何と云うか、私は暫く考えを巡らせていました。ところが、思いつかない。よく考えてみると、ドイツ人に未練のような感情があり無いように見える。ドイツ人

開催中の展覧会

特別展「読み継がれる鷗外」



第一展示室「読み継がれる鷗外」。気になるところからご覧ください。



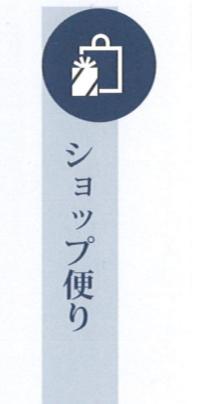
第二展示室「語り継がれた鷗外」。鷗外への思いを壁面いっぱいに掲示。

1,300以上に達する鷗外の著作を編年で一覧化。長さ11m40cmの迫力を展示室で堪能ください。

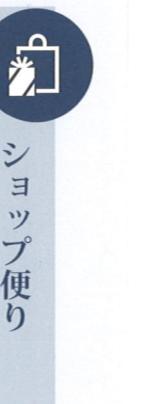
現在、鷗外生誕160年・没後100年記念の第二弾特別展として「読み継がれる鷗外」を開催しています。これまで何世代にも渡って読み継がれてきた鷗外を、これからも読み継いでもらいたいと願い、本展を企画しました。現代の読者と鷗外をつなげるため、鷗外を敬愛する小説家の平野啓一郎氏に企画協力をお願いし、「令和の視点」で鷗外を読み継ぐ人々を選出していただきました。

展覧会は、3つのカテゴリーで展開しています。1つ目の「読み継がれる鷗外」では、平野氏が選出した作家や研究者（青山七恵氏、コリーヌアトラン氏、宇佐見りん氏、ロバート・キヤンベル氏、永井愛氏、中島隆博氏、平出隆氏、村田嘉代子氏）が、それぞれの切り口で読み継いだ鷗外についての解説テキストを掲示。取り上げた鷗外作品の初出誌や書簡など関連資料と共にご覧いただけます。2つ目の「語り継がれた鷗外」では、明治から昭和の作家たち（斎藤茂吉、岡田八千代、木下奎太郎、中野重治、太宰治など）が語り継いた鷗外への思いを、彼らの作品から抜き出し、自筆資料や著作とあわせて紹介しています。3つ目は、「読み継がれる物語の系譜」—『即興詩人』です。鷗外訳『即興詩人』が、今までで読み継がれてきた変遷を、愛読した作家たち（上田敏、芥川龍之介、吉井勇など）が、感動を記した書簡や新しい創作につなげた様子を展覧しています。

約100点の展示資料の中には、美術作品や映画、演劇に関する資料もあります。さまざまな読み継ぎのかたちをお楽しみいただき、鷗外の読みかけとなれば幸いです。



新デザインのポストカード完成！



オリジナルポストカード
税込110円

鷗外関連書籍フェア開催 & ブックリスト配布中！

ブックリスト配布中！

生誕160年没後100年の記念年に併せて、当館および都内16店舗の書店で鷗外関連書籍フェアを開催しています（7月31日まで）。今回フェアで販売している書籍は、当館で作成したブックリスト「森鷗外に近く100選」が基になっており、当館ではそのうち50種類以上を揃えています。鷗外作品だけではなく、鷗外に関連する書籍も多く取り扱っています。

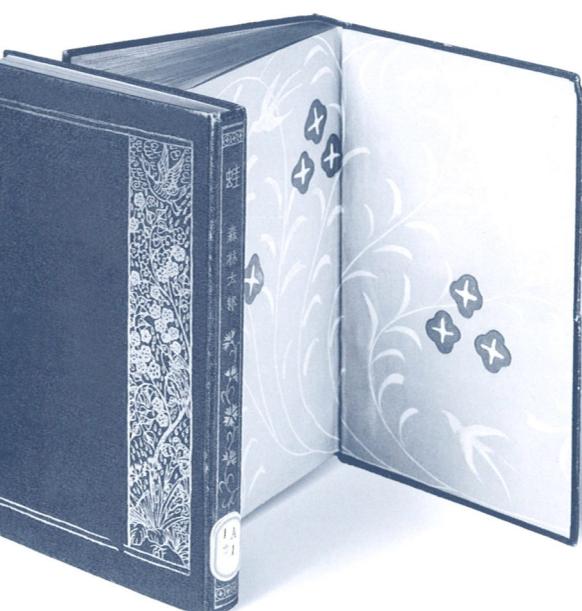
このブックリストは当館のスタッフが選出した100作品をまとめたものです。鷗外について書いた本や、鷗外作品がさらに面白くなるような本、親族の作品など、なるべく手に取りやすく馴染みやすいもの、そして現在も手に入るものを選びました。鷗外とは一見関係なさそうなタイトルも並んでいます。それが、どれも鷗外の多彩な活動に繋がっています。



新しいデザインのポストカードができました。鷗外の肖像写真を使用した3種類に加え、鷗外が愛用した品々をモチーフにしたポストカードの計4種類です。今回は肖像写真を使用したものを多く作りました。肖像写真を使用したポストカードは既存のデザインを含め4種類あります。留学先のドイツで撮影した青年の鷗外、幸田露伴や斎藤茂吉とともに並ぶ作家としての鷗外、軍服を着用し愛馬と写る軍医としての鷗外、教科書などによく掲載されている和服姿の鷗外（右図版）。軍医や作家など様々な顔を持つ鷗外らしく、印象がそれぞれ違います。

使用した写真について、特別展「写真の中の鷗外」人生を刻む顔」図録を読むと、写真を撮った際の背景やエピソードを知ることができます。ポストカード選びに迷つたときの参考に、図録も併せてお勧めします。

※中学生以下無料
障害者手帳ご提示の方と介護者1名まで無料
※文京ふるさと歴史館入館券、パンフレット（印）・友の会会員証ご提示でお割引き
●本展覧会の最新情報は記念館HPをご覧ください。
企画協力・平野啓一郎氏（小説家）
監修・山崎一穂氏（跡見学園女子大学名誉教授、森鷗外記念会顧問）
協力・県立神奈川近代文学館、公益財團法人日本近代文学館、世田谷文学館、たばこと塩の



「蛙」玄文社出版部、大正8(1919)年5月

フェア開催情報は書店HPで確認ください



これからの催しもの

催しは◎以外は全て事前申込制です。各申込締切日必着でお申込みください。
詳細は、チラシやHPをご覧いただくか、当館までお問い合わせください。
★応募多数の場合は抽選とさせていただきます。★悪天候等やむを得ない事情により、日程・講師・内容を変更する場合があります。

6月1日(水)～7月31日(日)

「森鷗外関連書籍セレクトフェア」& 「鷗外を探しに 書店をぶらりスタンプラリー」◎

会場：館内・区内・都内書店

当館スタッフお勧めの書籍を集めたブックリスト「森鷗外に近づく100選」を基にセレクトしたブックフェアを、文京区内・都内の書店で開催中。

スタンプラリー参加書店2店(対象書籍を店舗ごとに1,000円以上購入で1スタンプ)と、当館特別展「読み継がれる鷗外」観覧スタンプ、計3スタンプを集めると当館オリジナルミニバッケをプレゼントします(なくなり次第終了)。

詳細、参加書店は当館HPでご確認ください。

7月9日(土) 9:00～19:30(最終入館)

鷗外忌記念行事 & 区民無料観覧日 ◎

鷗外の命日(7月9日)は開館時間を延長し、展覧会を観覧された方に記念シールをプレゼントします。

文京区にお住まいの方、学校や勤務先が文京区の方は無料で展覧会を観覧いただけます。(住所が記載されているマイナンバーカード、保険証、免許証、社員証、学生証などをご提示ください。)

7月16日(土) 14:00～15:30

鷗外忌・没後100年記念講演会

「五足の靴に見る即興詩人の影響 ——鷗外を仰ぎ見る人々」

講師：森まゆみ氏(作家、編集者) 会場：講座室 定員：30名
料金：無料 申込締切：7月1日(金)必着

与謝野鉄幹、木下空太郎、北原白秋、平野万里、吉井勇の紀行文『五足の靴』と鷗外訳『即興詩人』にはどのような影響関係があったのか。『「五足の靴」をゆく 明治の修学旅行』の著者・森まゆみ氏にお話しいただきます。

7月23日(土) 10:00～18:00

文の京ワークショップ 「ポストカードプレゼント」◎

展覧会を観覧された方に、オリジナルポストカードをプレゼントします。

6月23日(木) 11:00～17:00

文の京ワークショップ/ふみの日イベント

「七夕に願いを込めて」◎ 一足先に七夕に願いを込めて、短冊を書いてみませんか。

会場：エントランス 料金：無料

7月7日(木)、8日(金) 11:00～17:00

七タイイベント ◎

期間中、エントランスに短冊作成コーナーを設置します。

8月27日(土) 13:00～16:00

鷗外講座・没後100年記念版

「森鷗外といふひと——鷗外の生涯を一日で学ぶ」

講師：倉本幸弘氏(森鷗外記念会常任理事、森鷗外没後100年記念事業実行委員長)

会場：講座室 定員：20名 料金：500円(資料代)

申込締切：8月12日(金)必着

鷗外60年の生涯を辿り、鷗外という人物、作品の魅力を倉本幸弘氏の解説で学ぶ講座です。(途中休憩あり)

9月10日(土) 14:00～15:30

鷗外講座・没後100年記念版「鷗外の短歌を語る」

講師：大塚美保氏(聖心女子大学教授、森鷗外記念会常任理事)、

今野寿美氏(歌人、宮中歌会始選者)、

坂井修一氏(歌人、東京大学教授)

会場：講座室 定員：30名 料金：無料 申込締切：8月26日(金)必着

歌人と鷗外研究者による特別講座です。鼎談も予定しています。

9月17日(土) 14:00～15:30

展示関連講演会「記憶をつなぐ」

講師：陶器二三雄氏(建築家、文京区立森鷗外記念館設計者)

会場：講座室 定員：30名 料金：無料※要展示観覧券(半券可)

申込締切：9月2日(金)必着

◆上記イベントの申込方法◆

事前申込制のイベントは、各申込締切日までに下記のいずれかの方法でお申込みください。申込みは、1通につき1名様(はがき・Eメールどちらかお一人様1通まで)、応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。申込締切後1週間以内に抽選結果をお知らせします。

①往復はがき 往信に参加希望プログラム名・日程・氏名(ふりがな)・住所・電話番号、返信用には、住所・氏名を明記の上、〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 文京区立森鷗外記念館イベント係までご応募ください。※日中に連絡が取れる電話番号をご記入ください。

②Eメール 件名に参加希望プログラム名・日程・本文に氏名(ふりがな)・Eメールアドレス・電話番号を明記の上、bmk-event@moriogai-kinenkan.jpまでご応募ください。※参加可否のご連絡をEメールでいたします。当館からのEメールが受信可能なEメールアドレスをご記入ください。受信制限が設定されている場合、当館からのEメールを受け取れないことがありますので、あらかじめご確認のうえ送信ください。※日中に連絡が取れる電話番号もしくはEメールアドレスをご記入ください。

[ご提供いただきました個人情報は、個人情報保護法に基づき適切に管理し、当該プログラム以外の使用はいたしません。]

〈館内にて新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っております〉

○体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。

○咳エチケット、マスク着用、手洗い、手指の消毒にご協力ください。

新型コロナウイルスの感染状況によっては、開催や内容の変更をさせていただく場合がございます。
ご来館の際は、事前にHPをご覧いただくか、お電話でお問い合わせください。

交通案内



●電車をご利用の場合

- ・東京メトロ千代田線「千駄木」駅 1番出口 徒歩5分
- ・東京メトロ南北線「本駒込」駅 1番出口 徒歩10分
- ・都営三田線「白山」駅 A3番出口 徒歩15分
- ・JR線・京成線「日暮里」駅 西口 徒歩15分

●バスをご利用の場合

- ・都バス 草63番系統「千駄木一丁目」下車 徒歩1分
 - ・都バス 上58番系統「团子坂下」下車 徒歩5分
 - ・B-ぐる千駄木・駒込ルート「19特養ホーム千駄木の郷」下車 徒歩5分
- ※一般の駐車場がございませんので、公共交通機関をご利用ください

〒113-0022 東京都文京区千駄木1-23-4 TEL: 03-3824-5511

URL: <https://moriogai-kinenkan.jp>

開館時間 10:00～18:00 (最終入館は17:30)

休館日 每月第4火曜日(祝日の場合は開館、その他例外あり)、年末年始(12月29日～1月3日)、及び展示替期間、煙草期間等



> 2022年 開館10周年

文京区立 森鷗外記念館

Mori Ogai Memorial Museum